

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

学校名	みやき町立三根東小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	令和4年度の学校評価結果については、主に以下のような(成果☆)や(課題★)があった。 ☆どの項目についても、達成することができていた。各担当者の企画・立案について、全校が一丸となって取り組む事ができた成果と言える。 ★全国学力学習状況調査や県学習状況調査の結果から、本校の児童には、長文を読み取る能力や自分の考えをまとめたり、表現したりする能力に課題があることが分かった。 ★「いじめ防止等についての組織的な対応」については、いじめに係る事案を担任だけが抱え込まず、教頭に限らず教務主任、生徒指導主任等にも相談できるような組織体制の輪を広げる。
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	キャッチフレーズ 「夢にチャレンジ東っ子」 学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔あふれる」児童の育成 ～ 自分大すき、友だち大すき、学校大すきな子供 ～
----------	-----------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	1 心の安心を育む学校風土の確立と児童の自己肯定感の向上(自分づくり) 2 豊かな体験活動の充実と地域を生かした教育活動の推進(仲間づくり) 3 主体的・対話的で深い学びの推進と確かな学力向上(学びづくり)
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)		実施結果		評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度	評価				
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	・問題を大事な言葉に気付けて読み取り、自分の考えを適切に表現できたと思う児童の割合が70%以上 ・児童の読解力や表現力を高めるために、授業の工夫に努めたと思う教職員の割合が80%以上 ・授業が分かりやすいと回答した児童が80%以上。	・視点や条件を与えながら自分の考えを表現する活動を取り入れるような授業改善を行う。 ・ICT機器(電子黒板等)を利活用する。	A		・授業が分かりやすいと感じている児童は97%と目標を大きく上回っている。 ・児童が、「自分の考えを書くことができた」という達成感をもつことができるような手立てを今後も講じていく必要がある。 ・児童の表現力育成のために、授業改善に努めた教職員は87%と目標を上回った。	A	・授業が分かりやすいと感じている児童が97%もいるということがとても素晴らしい。授業改善に努めてくれた教職員が87%ととても有難い数字である。 ・先生方の努力が実を結んで来たと思われる。	
	○児童の豊かな読書力を推進する。	・進んで読書をしたと思う児童の割合が85%以上 ・読書の目標冊数を達成した児童90%以上	・図書館祭りなどのイベントを行い、図書館の魅力を発信する。 ・図書委員会による校内放送での呼びかけをする。 ・調べ学習などで、図書の本を活用してもらうように呼びかける。	A		・アンケートの「図書館でかきた本をたくさん読んでいますか」の項目に対して、82%の児童が進んで読書をしている。成果指標85%に対して、80%以上を満たしている。また、目標冊数を達成できた児童は全体の78.5%であり、これは、目標の80%以上にあたり、十分達成していた。しかし、読書量の個人差が大きいので、来年度は、担任や図書委員会等での呼びかけを強化するとともに、各学年のおすすめの本30冊をより推奨し、学年に応じた読書の取り組みにも力を入れていきたい。	A	・読解力を上げる事で人の考えを理解できるようになるので、読書を勧めるのは大変良い事だと思う。 ・本を学校で読む時間を設けてもらえると、より本を読むことができると思う。 ・お話し会(全クラス集めて)の復活もあるといいかもしれない。	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・学校生活アンケートで、豊かな心を育む項目において、肯定的な回答をした児童の割合が80%以上。保護者80%以上。	・「人権集会」や「命を考える日」の取り組みを通して、命の大切さを実感させる。 ・道徳科の授業づくり等に関する校内研修や、「ふれあい道徳」を実施する。 ・異学年交流体験、保護者や地域人材を活用した授業を実施する。	A		・「人権集会」や「命を考える日」の集会は、命の大切さや他者への思いやりを学ぶよい取り組みだった。道徳科の授業づくりの研究授業を行い、教員間の共通理解を図ることができた。また、参観日に「ふれあい道徳」を全クラスが実施し、家庭・地域と連携した道徳教育を推進できた。「なかよしタイム」「しめ縄作り」など、異学年交流や地域人材を活用した授業も実施できた。学校生活アンケートの豊かな心を育む項目においては、肯定的な回答をした児童が97%、保護者が91%という結果が出ており、目標を十分達成できたと考えられる。	A	・今まで続けてこられた「命を考える日」の取組は、感心している。これからも続けて欲しい。 ・毎年「命を考える日」の集会を行っているので、年齢を重ねるにつれ、命の大切さを重く考えられるようになっていけると思う。	

●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的に対応ができていると回答した教職員の割合が70%以上。	・いじめの認知・覚知に対するマニュアルの作成・見直しを行う。 ・月1回生徒指導連絡協議会を行い、児童理解といじめの早期発見に努める。 ・なかよしアンケートを年間6回行う。	A	・いじめ防止等について組織的に対応ができていると回答した教職員は、「あてはまる」が67%、「だいたいあてはまる」が27%だった。月1回の生徒指導連絡協議会や年間6回のなかよしアンケートなどで児童の様子について確認し、教職員間で共通理解を行うことができた。	A	・いじめは早期発見が大切であり、常に生徒と話し合いを続けて欲しい。 ・「いじめにあっている」と声に出して言えない児童もいるかもしれない。先生に言って対応してもらい、双方で話し合った後、そのことについてまたいじめられないかが心配である。
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	・「先生は自分のよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童75%以上 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童70%以上	・年間の学校行事や学級活動の中で「出番・役割・承認」運動を全職員で推進する。 ・学期ごとに学習面・生活面の目標をもたせて取り組ませる。 ・「夢」や「なりたい自分」に関する取組を実施し、それに向けて努力することの大切さを理解させる。	A	・12月に実施したアンケートで、自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童が79%、自分の目標にねばり強く取り組むことができた肯定的に回答した児童が87%。今後も、卒業や進級に向けて目標をもって取り組める活動を推進していく。	A	・自分の良い所と思える所をもっと増やせるように、これからも良い所を認めてもらい、自分の自信へと繋げて欲しい。 ・常に目標を見て、忘れないように活動して欲しい。
	○児童の自己肯定感の向上	・学校生活アンケートで自分のよいところがあると思う子どもの割合が70%以上 ・「心のタイム」等で、「光るところ見つけ」カードを年間5枚以上書く。	・年6回の「なかよしアンケート」に自己肯定感に関わる項目を入れて実施する。 ・年7回の「こころタイム」による光るところ見つけ活動や教職員(生活面)保護者(学校行事)による承認活動に取り組む。	A	・自分には良いところがあると答えた児童が92%から89%。家庭で子供の良いところを伝えているという保護者は、93%から91%と若干下がっている。また、教師が児童の良さを見付け称賛する活動が100%から93%と下がったことにかかわりがあると考えられる。教師の称賛活動を見直すことを第一に家庭への啓蒙も図りながら続けていきたい。	A	・子供の自己肯定感、家庭での子供への関わり方が大切と思うので、親へ向けた講演会などをPTAで企画して、参加をしてもらえたらいいと思う。 ・自分を称賛できる子供は、他人の事も良く見えるようになると思われる。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「望ましい生活習慣の形成」	・早寝、早起き、朝ご飯の取組ができていると回答した児童の割合が80%以上。 ・SNSなどの情報モラルを守れていると回答した児童の割合が80%以上。保護者80%以上。 ・むし歯保有率を佐賀県平均の19.35%以下にする。	・早寝、早起き、朝ごはんの啓発を年2回実施する。 ・7月に食生活アンケート実施し、実態を把握する。 ・11月に早寝、早起き、朝ごはんの実践シートの活用とアンケートを全校児童に実施し、進捗状況を把握する。 ・SNSの使い方など、情報モラルについての指導の学期毎に1回以上行う。 ・むし歯保有者の治療勧告書を個人面談時に配布し、保護者の受診への意識付けを行う。 ・歯科衛生士によるブラッシング指導(歯ッピー教室)や歯の講話を実施する。 ・むし歯保有者に対しブラッシング指導を実施する。	A	・早寝、早起き、朝ごはんの啓発を年2回(7月・11月)実施できた。11月に朝ごはんの資料配布と実践シートを実施して、家庭への啓発を行った。アンケートで「健康に良い食事をしている」と回答した児童が85%で4月の82.6%に比べ増加した。歯科衛生士によるブラッシング指導や歯の講話令和6年1月に実施した。12月に本校のむし歯保有者(18名)を対象に養護教諭が個別でブラッシング指導を実施し、冬休み期間に歯科受診するよう啓発した。本校のむし歯保有率は12.08%であり、佐賀県平均の19.35%以下であった。	A	・朝ご飯アンケートがある時は、朝食の内容に気を遣うので、「早寝・早起き」も実施アンケートを探ると、気を遣って実践されるのではないかとと思う。 ・歯のブラッシング指導をさせていただいているので、とても助かっている。 ・何よりも、生活習慣は、日頃から当たり前だと感じて行う事が大事だと思う。
	○「運動習慣の改善」	・目標を決めて、「スポーツチャレンジ」に1回以上取り組む。 ・遊べる日に、外で元気に遊んだとアンケートに答えた児童が80%以上。	・縦割り班で八の字跳びにチャレンジする期間を決めて取り組ませる。 ・学級で目標を決めて、「スポーツチャレンジ」に1回以上参加する。 ・月1回以上、学年で外遊びを決め、実施する。	A	・休み時間に「外で元気に遊んでいる」と71%の児童が回答した。 ・スポーツチャレンジにどの学年も目標を決め、実施している。 ・高学年になるにつれて、外で遊ぶ割合が減ってきているため、「1ヶ月で二十跳び100回チャレンジ」のように、体を動かす目標を定めたり、外で遊ぶように促す放送を入れる等の工夫が必要である。	A	・休み時間は教室にいる児童もいるので、外で遊ぶというきっかけが欲しい。月に一度は「クラス全員で〇〇をする」など目標があると外で遊びやすいかもしれない。 ・外遊びをして、太陽の光を受け育てて欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1月45時間)を守れた教職員を90%以上にする。 ・計画的効率的に職務遂行できたと回答した教職員の割合を75%以上にする。	・昨年度実施した職員会議のペーパーレス化等の効率的な職務遂行、全職員による協働的な教育活動のみならず、時間外勤務時間の削減に繋がる業務改善に取り組む。	A	・時間外在校等時間の上限(1月45時間)を守れた教職員は88%で、目標の90%の8割以上達成できた。退勤時刻30分前に施錠時刻の予告を行ったことが、見直しをもった業務遂行・退勤に繋がった。計画的効率的に職務遂行できたと回答した教職員は87%で、目標の75%を大きく上回っていた。業務のデータ化、スリム化、協働作業により、計画的効率的な業務遂行に繋がった。	A	・働き方改革において、時間外は教員の負担の表れと考える。教員数を増やすなどの対策が必要ではないか。増員による教員間の情報共有コミュニケーションが重要になる。 ・学校への電話が繋がる時間が決まったので、少し不便な所もあるが、先生にはとても良い事と思う。 ・決められた時間の中での活動は、大変だろうが頑張りたい。
	○教職員の心身の健康を支える職場環境づくり	・気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員80%以上。	・相談しやすい職員室の雰囲気づくり ・自分の意見を言いやすい風通しのよい職場づくり ・職員が休みを取りやすい体制の工夫	A	・アンケートの結果、気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員は93%で、目標の80%を大きく上回っていた。今年度の具体的な取組が効果を上げた成果と言える。是非、次年度も継続していきたい。	A	・子供達ばかりのケアではなく、先生方のケアもしっかりと出来ているようなので安心した。 ・何より教職員が一番だ。身をもって示すことが大事である。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言

<p>○地域とともにある学校づくり</p>	<p>○保護者、地域、関係機関との連携の推進(幼保小連携含む)</p>	<p>・教育活動の充実のため、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたと回答した教職員70%以上。 ・学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えていると回答した保護者80%以上。</p>	<p>・学校だよりの発行や学校ホームページの更新を定期的に行い、教育活動の様子を随時伝える。 ・地域人材リストや地域連携カリキュラムの作成・更新と効果的な活用</p>	<p><b>A</b></p>	<p>・アンケートの結果、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたと回答した教職員が73%で、目標の70%を上回っていた。今後、教育活動に協力していただける地域人材の更なる発掘に努めていく。アンケートの結果、学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えていると回答した保護者は97%で、目標の80%を大きく上回っていた。学校だよりの発行や学校ホームページの更新を定期的に行い、教育活動の様子を随時伝えてきた成果と言える。次年度に向けて、地域人材リストや地域連携カリキュラムの見直し・修正を行っていく。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>・校長先生がユーチューブで、リアルタイムに配信してくださるので、とても嬉しく拝見させていただいている。月間予定もマチコミメールで配信してくださるので助かっている。 ・学校だよりにQRコードによる動画配信は評価でき、保護者も親しまれていると思うが、公開されることに不安をもたれる保護者もいらっしゃると思うので、同意を取ることが重要である。 ・コロナの5類になり、地域との関わりも少しずつ増えつつある。来年度は、今年度よりも地域の人との関わりも増やしていいかと思う。 ・色々な取組は大変だと思う。感謝している。</p>
-----------------------	-------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

<p>5 総合評価・次年度への展望</p>	<p>・全体的に、どの項目についても、達成することができていた。各担当者の企画・立案について、全校が一丸となって取り組む事ができた成果と言える。 ・「児童の豊かな読書力の推進」の項目で、目標冊数を全体的には十分達成できていた。しかし、読書量の個人差が大きいので、来年度は、担任や図書委員会からの呼びかけを強化するとともに、国語科等の読解力指導とも関連させながら、学年に応じた読書の取り組みに力を入れたい。 ・「保護者、地域、関係機関との連携」の項目で、目標は上回っていたが、今年度から学校運営協議会が始まったこともあり、更によりよい保護者、地域、関係機関との連携の在り方について考えていく。 ・今年度は、項目に挙げていなかったが、不登校や心理的不調、特別支援など配慮の必要な児童が増えつつあることから、教職員の児童理解力の向上や問題に組織的に対応するための役割や動きの再確認と共通理解を図る必要がある。</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------